



上  
奏

第十九師團長鈴木美通

3077

臣 美通

第十九師團管下ノ狀況ニ就キ謹  
テ上奏ス

昭和十年四月

第十九師團長鈴木美通花押

3078



一軍紀風紀ハ概ネ嚴正ニ保持セ  
ラレ志氣亦緊張シアルモ國境  
師團タルノ特殊地位ニ鑑ミ將  
來益之カ振作向上ヲ期セント  
ス  
二將校教育ハ概ネ所期ノ成果ヲ  
收メ進歩ノ良況ニ在リ特別志  
願士官ノ伎倆ハ逐次向上セラ  
レ實務ノ遂行ニ概ネ支障ナキ  
程度ニ達シアリ然レトモ軍事

能	人	准	ト	ヲ	シ	ク	増	へ	諸
々	少	士	ス	修	メ	シ	進	將	般
増	ヲ	官		メ	以	將	ヲ	來	ノ
進	補	下		シ	テ	校	圖	益	進
ト	ヒ	士		ム	軍	團	ル	徳	ト
ニ	得	官		ル	隊	ノ	ト	性	軍
勉	ル	ノ		コ	ノ	團	ニ	ノ	ノ
メ	如	教		ト	損	結	愈	陶	使
ツ	ク	育		ニ	榦	ヲ	操	冶	命
ツ	徳	ハ		努	タル	鞏	守	ト	ト
ア	操	將		力	ル	固	ヲ	ニ	稽
ル	ト	校		セ	ノ	ナ	堅	稽	
モ	技	ノ		ン	實	ラ			

未夕所望ノ域ニ達セサルモノ  
アルヲ以テ將來更ニ一段ノ向  
上ヲ期ス

三軍隊ノ教育ハ將校以下ノ努力  
ニ依リ概ネ順調ナル進歩ヲ遂  
ケツツアリ然レトモ當師團ノ  
地位ト隣邦蘇國ノ情勢トニ鑑  
ミ將來一層各級幹部ヲ督勵指  
導シテ益々訓練ノ精到ニ邁進シ  
殊ニ對蘇軍戰法ニ就テハ形式

模倣ヲ戒メ典令範ノ真隨ヲ把	握シテ之ヲ活用セシメ以テ真	ニ必勝ノ信念ニ燃ユル實戰的	軍隊ノ練成ヲ期ス	四内務ノ履行ハ概ネ確實ニシテ	逐年良況ニ向ヒツツアルヲ認	ムルモ尙未タ所望ノ域ニ達セ	サルモノ甚カラサルヲ以テ今	後益々軍隊内務書改正ノ精神ヲ	徹底セシメ以テ軍紀嚴正ニシ
---------------	---------------	---------------	----------	----------------	---------------	---------------	---------------	----------------	---------------

蘇聯固ナル團結ノ完成ニ邁進  
セシトス  
五守備勤務ノ履行ハ確實ニシテ  
蘇滿兩國境線ニ對スル警備ハ  
至嚴ニ保持セラレアリ然レト  
モ南島方面蘇國人兵備ハ益々増  
強セラレ又鮮内ニ對スル其策  
動愈々潛行的ニ實施セラレル  
アリ又接壤滿洲國內ノ情勢ハ  
我軍ノ武威ニ依リ逐年良況ニ

向ヒツツアルモ兵共匪ノ蠢動  
ハ今尚終熄スルニ至ラス二月  
中旬其一部ハ東興（鴨綠江上  
流）襲撃ヲ企圖セルヲ以テ師  
團國境守備隊ノ一部ハ第二十  
師團國境守備隊ニ協力シテ越  
境出動シ治安ノ確保ニ任セシ  
等依然偷安ヲ許ササルモノア  
リ其他管内一般ノ民心ハ滿洲  
事變ヲ契機トシ面目ヲ一新シ

逐年善導セラレ良況ニ向ヒツ  
ツアルモ青年中一部ニ於テ不  
穩的潛行運動ヲ爲スモノ未タ  
其跡ヲ絶タサルモ然アリ  
以上鮮内外ノ情勢ニ鑑ミ將來  
一層守備勤務ノ完璧ヲ期シ有  
事ニ際シ萬遺算ナキヲ期セン  
トス  
六當師團ヨリ出動シアル揮春支  
隊ニ對シ曩ニ優渥ナル聖旨

及令旨ヲ賜リ洵ニ感激ニ堪ヘ  
サル所ナリ同支隊ハ引續キ討  
伐ト招撫トヲ併セ行ヒ各種ノ  
艱難ニ堪ヘ治安ノ確立ニ努力  
シツツアルヲ以テ該地方一帯  
一般ニ平穩ニ歸シ住民何レモ  
其堵ニ安ンシアリ然レトモ蘇  
國ノ支援ヲ有スル一部殘存共  
匪ノ蠢動尚依然タルモノアル  
ノミナラス同地方ノ警備ニ任

シアル滿洲國軍ハ素質良好ナ  
ラサル爲却テ住民ノ信望ヲ失  
ヒ又相次ク逃亡者ノ兵共匪ニ  
投ヌルモノアル等動モスレハ  
治安ヲ破壊セラルルノ虞ナキ  
ニアラサルヲ以テ支隊ハ此等  
兵共匪ノ絶滅ヲ圖ルト共ニ滿  
洲國軍ノ指導ニ任シ以テ其任  
務ヲ完ウスルニ遺憾ナキヲ期  
シツツアリ

七 動員並防衛ニ關スル計畫並準  
備ハ共ニ確實ニ整備セラレ實  
施ニ支障ナキヲ信ス  
八 兵器ノ保存整理ハ概ネ良好ナ  
リ又出動部隊所屬兵器ノ應急  
復舊ハ其大部ヲ終了シ昭和九  
年度ニ於テ増備セラレタル兵  
器ニ伴フ諸施設モ著々進捗中  
ニシテ師團ノ動員並警備上支  
障ナキヲ信ス

九 經理一般ノ状態ハ概ネ良好ニ  
シテ軍需諸品ノ整備及諸給與  
ノ實施ハ共ニ適切ニ行ハレツ  
ツアリ

十 將校以下ノ保健状態ハ概ネ良  
好ナルモ昨年度團下各部隊ニ  
於テマラリア<sup>ア</sup>結核性疾患ノ多  
發セルニ鑑ミ極力之カ防遏ニ  
努メツツアリ

十一 軍馬ノ保育並衛生状態ハ概ネ

良好ニシテ特ニ野戰的管理ノ  
實施ニ依リ寒暑ニ對スル抵抗  
力ヲ増進セシメツツアリ  
十二將校以下服務ノ状態ハ熱心著  
實ニシテ克ク時局ノ重大性ト  
軍ノ使命トヲ認識シ各々其職責  
ノ重大ナルヲ痛感シテ奉公ノ  
信念ヲ益々堅クシ上下一致旺盛  
ナル意氣ヲ以テ何レモ專心軍  
務ニ精勵シツツアリ

十三管内ニ於ケル在郷軍人ハ北鮮  
及間島地方ノ開發ニ伴ヒ其數  
激增シ移動頻繁ナルモ益々發展  
ノ好況ニ向ヒ眞ニ地方ノ中堅  
トシテ奉公ノ至誠堅キヲ加ヘ  
殊ニ國境在留者トシテ萬一ノ  
變ニ備ヘアリ  
十四學校教練及青年訓練ハ良好ナ  
ル成果ヲ收メ内鮮共學ノモノ  
ニ在リテモ相當ノ實績ヲ收メ

ツツアリ  
十五軍隊ト地方官民トノ關係ハ圓  
滿良好ニシテ軍部ニ對スル内  
鮮滿人ノ信賴ハ時局ト共ニ愈  
厚キヲ加ヘ特ニ國防ニ關スル  
官民ノ理解及熱意ハ益々向上セ  
テレ著々軍民一體ノ實ヲ舉ケ  
之カ愛國ノ至誠ハ銃後ニ於ケ  
ル有形無形上ノ後援トシテ眞  
ニ感激ニ値スルモノアリ

之ヲ要スルニ當師團ノ現況ハ將  
校以下ノ精勵努力ニ依リ諸事順  
調ニ進歩シ其成績ハ概ネ良好ナ  
リ又曩ニ本年秋師團對抗演習ヲ  
實施スヘキ旨令達セラレタルト  
國境師團特種ノ環境トハ時局柄  
一層志氣上ニ大ナル影響ヲ與ヘ  
將兵何レモ建軍ノ本義ニ基キ其  
使命貫徹ノ爲銳意邁進シツツア  
リ將來一層部下ヲ督勵シ精銳ナ

